



Subaru

男声合唱団 ニュース№623 '17. 8. 30

「昂」第17回総会を開催 ー 11回コンサートの成功とこれからの昂を ー この道をゆこうよ ー

8月26・27日

□8月26日（土）14：00～17：00新大阪ココプラザ美術工房（大阪市立青少年センター）にて、昂第17回総会が開催されました。昂の2016年度の活動の総括と、これから1年（2017年8月～）の活動方針等を決める大事な会議となりました。総会後夕食、19：30から約2時間半、懇親会を開き、日頃の昂の団員の健闘をねぎらい、今後の活躍を期して乾杯し、なごやかな懇談の時間を過ごしました。総会の参加者は36名、懇親会は29名でした。

□活発な討議の総会

□まず最初に千秋団長から開会の挨拶を兼ねて、「昂のさらなる発展の！」と、次のようなメッセージが出されました。

「戦後72年、被爆72年。核兵器禁止条約が国連で採択されました。歴史的快挙です。被爆者の地道な叫びが今日を築いたのではないでしょうか。しかし、日本政府は背を向けています。アベ政権は憲法9条までも変質させ、挙句は共謀罪や盗聴法など、国民を監視社会に置き、戦争の危険を増大させています。従軍慰安婦や南京大虐殺さえ歴史から消し去ろうとしているのです。

こんな時こそ、「うたごえは平和の力」を掲げ、昂をさらに発展させたい。昂は2000年に誕生し17歳になります。今11回コンサートを迎えるとしています。2000年に50歳だった人は、今67歳に。60歳だった人は77歳に。成熟した昂になっていると思います。

今後も昂は団員80名を掲げたい。そのためには、何をどうしたらいいのか。みんなで議論がいると思う。たとえば、12月3日のコンサートの成功です。観客を一杯にすることも大切です。同時に、演奏内容を深め、昂を聴いてくれた人が、入団したいと思うほど、感動を与え、昂を大きくするために応援しようと思っていただくことが大事だと思います。一足に80名にならなくても、展望を開くチャンスだと思います。そのためには、残された9～11月の3か月間の曲の仕上げに各自が挑戦することが大事だと思います。合唱は、まわりの声ととけあい一つのハーモニーを作りますが、ついで周りの声に頼ってしまいがちです。一人一人が自分の声で、自分の心で歌い、かつ、全体にとけあう合唱を3か月で築き上げましょう！

次回総会は多分2018年だと思います。12月3日後の目標をその時に決めるのは遅いと思います。今総会で、2018年以降の昂を展望していくことが必要だと感じています。

団創立2000年からこの間、音楽を愛し、昂を生きがいとしてきた7名の団員が亡くなられました。その団員たちの思いを昂に生かし、引継ぎ、さらに高めていきましょう。

最後に、それぞれの団員の健康管理にはくれぐれも気をつけて、この夏を乗り切りましょう。」

□大畠議長を選出し、配布済みの「第17回総会議案書」に基づき、「この1年の活動を振り返って」の活動報告が立川事務局長から、「これから1年間の活動を展望して」としての活動計画が伊藤技術部長・副指揮者から行われました。つづいて「技術部・組織部・広報部・財政部等各部からの報告」が各部長・部代表からあり、「2017年度役員体制(案)」「財政収支報告と会計監査報告」等それぞれの報告と共に活発な討議がおこなわれました。



□特に「これから1年の活動を展望して」（「新年度の運動方針」）としての報告・提案とそれに関連して積極的な意見・発言がありました。

（1）第11回コンサート「この道をゆこうよ」を成功させよう について

○コンサートテーマ「この道をゆこうよ」とは「昂の道は平和で健康な、生きる勇気のわくうたごえを通して人々の人生の扉を開くために旺盛な演奏活動を広げ仲間を増やしていく道」「平和のうたごえを広げていく昂の歩む道を仲間を増やしてみんなで行こうよ」（「議案書」より）

○「第11回コンサートを成功させましょう」が当面の昂の活動の中での一番大きな課題。

- ・レッスンを欠かさず出席する努力を！欠席者が多いと音が合わない！集中力のあるレッスンを！
あと15回のレッスン。「暗譜で舞台に立つ」ためには、11月以降のレッスンは完全暗譜・9月中にはほぼ全曲を覚える。10月のレッスンでは膝に楽譜を置いて指揮者をしっかり見て曲想を作る段階。
- ・レッスンと同時並行で、聴衆を集める努力を！チケット販売を！
1300人に入る会場。相当の覚悟をして、あらゆる関係する方々にチケットを渡す・売る、昂コンサートにお説きする声掛けを進めてください。（場所が遠いという方には「梅田から阪急宝塚線・普通で曾根へ14分・駅から徒歩5分」と宣伝してください！）

（2）「今後のコンサート活動について」に関連して、11回コンサートの後のコンサートの取り組みについて以下のように多くの意見が出されました。来年に向けてのコンサートをどうするか、その在り方・昂の基本姿勢を堅持しながら新しい試みをどう作っていくか、検討しましょう。

- ・曲数減らして、期間を2年ごとせず短くして次回コンサートを開催する。
- ・運営委員会では「千秋ソロリサイタルと昂の演奏ドッキングするのも1案」と出ている。
- ・20曲暗譜の2年に1度のコンサートは年と共に困難な状況。1年1年やっていく方向。賛助合唱団や兄弟の合唱団を呼ぶ、昂が半分・ゲスト合唱団が半分で昂の演奏曲目10曲程度にして。
- ・（千秋）ソロリサイタルの具体化はこれから。歳を重ねる・歳を取ることを実感する。一定の目標をもって、目標を決めて取り組んでいくことが大切。昂の2018年以降いつ？コンサートするか？千秋と昂のジョイントをドッキングすることにこだわりはない。昂は歌をどうするか討議して欲しい。
- ・（本並）昂は40名の男声合唱団で、全国で数少ない男声合唱団。誇るべき。若い人は仕事の関係で難しいが、定年でどう生きるかの人たちの活動分野として、昂で歌で人生を謳歌するのも良し！

50名は欲しいところ。また千秋ソロリサイタルと昴とのジョイントを来年開催もいい企画。賛成する。今回の11回コンサートの曲目は過去の焼き直しが多い。よく練り直し過去の総まとめをしたいということだ。その次の選曲は違うことをしたい。

- ・2年に1回本格的なコンサートを、その間にミニコンサートを・・
- ・入団して4年。3回のコンサートを経験する。これまでの昴の得意な曲目を中心のコンサートが続いている。すぐれた詩に新しい曲を委嘱する・組曲を創ることも考えてみては。
- ・コンサートの在り方として、「本並義徳とその仲間たち」と銘打って、他合唱団も出でもらって手伝ってもらう。今80歳となり曲目を暗譜するのがきつい。20曲のステージはこの年では過酷
- ・男声合唱の組曲をと考えるなら、”不知火“も良い。テーマを決めて組曲に取り組むのも面白い企画だ。
- ・いろんなゲストをたくさん呼んでジョイントした演奏会よろしくない。私が入団して過去3回のコンサート、聴きに来てくれた人々は、“歳取ったオッサンが、むつかしい曲をうまく歌っているなあ”と感動している。私は”凜として合唱団“のうたう姿に共感する。ゲスト呼ぶのは基本的に反対。しかし20曲の暗譜はさすがにきつい！
- ・(本並)”凜として合唱団“はその通り。合唱団の基本姿勢として、昴の色はあまり変えたくない。関西合唱団は毎年委嘱作品を歌っている。全国のうたごえ運動の方針に沿って、新しいうたごえを創り広めようと、発信しようという姿勢で活動している、評価すべきこと。1曲数十万円で昴は経済的にむり。
- ・暗譜の問題。「楽譜見て正確に歌う」は駄目か。
- ・「楽譜無しで、歌う」(暗譜)でないといい演奏はできない。昴の合唱団メンバーでは、楽譜を見ることで、指揮者を見ていない、他のパートの音を聴いていない、聴衆の反応も読んでいない、そのような演奏で聴衆に感動を与えることはできない。20曲は大変だが、あらゆる機会を作つて(車のなか、電車の中、何かの待合・・等)時間をとつて曲を覚える努力をしよう！
- ・来年に千秋さんと一緒にコンサートをすることはいい企画。またコンサートの在り方として、「コスモス」など単独でコンサートできない合唱団も発表の機会が出来ていいのでは。
- ・来年「千秋リサイタル10曲、昴も歌いたい10曲　いずみホールで！」はどうか。

□長時間の報告・質問・意見提案等真剣で建設的な討議のあと、「過去1年間の活動報告」「これから1年間の活動方針」「技術部・組織部・広報部等各部からの報告」「2017年度役員体制」「財政収支報告と監査報告」「次年度の予算と見通しについて」を挙手により満場一致で可決し、新年度の活動も新たに、総会の幕を閉じました。

なお総会で提起された発言・提案等は次号以降のニュースでも掲載する予定です。

□和やかな懇親会

千秋団長から、乾杯の音頭と挨拶があり、日頃の厳しい練習の合間、みなさん年相応に結構忙しい毎日の生活から離れ、用意されたビールを飲みかわしながら、たのしい歓談のひとときをすごしました。



今年新しく昴に入団された3名の方々は、自己紹介を兼ねて、前職での苦労、昴との出会い・昴に入ったきっかけ、昴に入団しての喜びや感動・レッスンについての感想等を語つていただき、聞き入る団員に、ともに歌う仲間としての共感の感動を呼び起こしてくれました。

また一人一人の団員から、自分の現状報告も兼ねて、いろいろと語っていただきました。自分の合唱活動について、昴の在り方について

て、合宿とレッスンについて、健康状態について等々・・・今回は更家さんがアルコールや酒肴の馳走を用意いただきました。謝謝！

□27日（日）の午前は定例の強化レッスン3時間



□総会合宿の2日目 8月27日（日）は同会場にて、9：00～12：00 定例の強化レッスンが行われました。

本並先生の指揮で、「さとうきび畑」と「想像力」「忘れっぽい人に」に力が入りました。「さとうきび畑」は尾上和彦編曲に変更があるということで、新しい楽譜で歌い直しのレッスンとなりました。
(変更箇所は追って「一口メモ」でお知らせします。)

最後に、合唱発表曲「ぶどうとかたばみ」「このみち」を指揮者に集中して、声を合わせていきました。ピアノは森二三さん。参加者は全37名でした。

昼食後、「第7回団内コンサート」が13：00～15：30開催されました。「団内コンサート」の参加者は団員37名+特別参加2名とピアニスト2名・お客様2名の全43名でした。

「総会と団内コンサートに参加して」 T1 吉岡

総会と練習、団内コンサートぶつ通しで2日間ごくろうさまでした。充実した内容でしたが、正直疲れました。
運営については、もう少し練習の時間をとることはできないものでしょうか？

色々なコーラス団体の合宿に参加した経験でいえば、練習漬けの毎日(2日で午後・夜・午前・午後の練習)で、一気に演奏が一段上った体験があります。昂の練習は、練習日と練習日の間隔が長く、同じ曲を練習するのは2週間後という時があり、前回の指摘を忘れてもう一度繰り返すことがあります。合宿などでまとめた時間だと、一つの曲を集中して仕上げていくこともできるのではないかと思います。

総会については、いろいろな意見を言える場として重要だなと感じましたが、時間が少し長い感じがします。もう少し短くできないでしょうか？

団内コンサートについては、20人がみんなの前で自分に挑戦することと、一人一人の個性豊かな歌に楽しい時間を過ごさせていただきました。できれば来年私も出てみたいと感じましたが、合宿とは違う日程にできないものでしょうか？

(新入団員の吉岡さんから貴重な感想文をいただきました。ありがとうございました。広報部)